

笑顔の夕ネ

若松中学校 三年 神原 愛音

私には六歳から変わらない夢があります。それは、アレルギーをもつ人も安心して楽しみながら食べられるスイーツを作ることです。

私は六歳のときに祖母に連れてってもらったケーキ屋さんで、初めてアレルギー対応のスイーツについて知りました。祖母は牛乳アレルギーだったため、スイーツが大好きでしたが、好きなケーキを好きなように食べることができませんでした。だからこそ、アレルギー対応のスイーツを見つけたときの祖母は本当にうれしそうでした。大好きな祖母がうれしそうにしている姿を見た私は、もっと祖母を喜ばせたいと思いました。それと同時にもっとたくさんの人が喜ぶ姿をみたいとも思いました。そのときの経験から、私の夢はパティシエになりました。最近では小学校や中学校の給食でも食物アレルギー対応のスイーツが出てくるようになりました。栄養教諭の宮崎先生に食物アレルギー対応の学校給食についてうかがいました。北九州市の食物アレルギー対応は以前からも行われていたそうです。

が、平成十八年の二学期から、調理の段階で食物アレルギーの原因食品、卵や乳製品、種実類を取り除く、除去食が実施されるようになりました。食物アレルギーを起こす特定原材料等は二十八品目ありますが、発症数の多さや大量調理において衛生的に安全に調理できる食品、卵や乳製品、種実類は除去対応食品とされています。食物アレルギー対応給食の目標は食物アレルギーをもつ児童生徒も、給食時間を安全に、楽しんで過ごすことができるということでした。

宮崎先生は栄養教諭として誤食は命にかかわることもあるので、まずは、全員の給食を安全に作ることを最優先に考えているそうです。アレルギーをもつ児童は、食物アレルギーの原因食品の入っている給食を毎回食べることはできませんでした。「食べたいな」という声を聞きながら、栄養教諭の先生方も「食べさせてあげたいな」と思っていたそうです。お楽しみ献立として取り入れられたケーキやクレープには卵や乳製品が必ず使われていたため、食べることができない児童がいました。別

のデザートを持参していた児童もいましたが、他の子が「このケーキおいしいね」と会話しているときに、「どんな味がするの？」や「いいなー」と言っていた姿を今でも思い出すそうです。現在のように除去食の対応が始まってからは、食物アレルギーをもつ児童生徒が、お弁当を持参する日も少なくなり、みんなとほぼ同じ給食を食べることができるようになりました。という声を聞くことができるようになりました。そして、今では、ノンエッグマヨネーズや卵、乳製品などを使用しないケーキなど種類も多く、味もおいしいものが開発され、価格的にも給食に取り入れやすくなり、みんなで同じものを味わうことができるようになってきています。宮崎先生は、「これからも様々な食品を組み合わせながら、みんなが安心して食べられる給食にしていきたいです」とおっしゃっていました。

学校給食以外にも、福岡県にはアレルギー対応の食品を販売しているお店がいくつかあります。福岡市西区にある「しあわせ工房」というお店では卵、牛乳、小麦、大豆を使用していないケーキや焼き菓子、プリンなど、安心、安全で楽しく食べることが出来るアレルギー不使用のお菓子をつくり、販売しています。他にも、田川郡福智町にあるケーキとパンのお店「ちびちび」というお店では、「自分の子供に安心なお菓子を食べ

させたい」という思いからアレルギー対応のケーキや焼き菓子を販売しています。北九州市八幡西区にある「mizutama kitchen」というお店では、「アレルギーがあつてもなくてもみんなが同じものをおいしく食べてもらえますように」という想いを込めて、小麦、卵、乳製品、白砂糖不使用の心にも身体にも優しい米粉スイーツや米粉パンを作っています。

紹介をした三つのお店以外にも、まだまだアレルギー対応の食品を販売しているお店はたくさんあります。どのお店もみんなが安心して食べられるようにしたいと思っています。

私はアレルギー対応のスイーツを、今よりもっと私たちにとって身近なものにしたいです。そのために、パティシエになるという夢を叶えたいです。

そして、アレルギーが原因で好きなものを食べられないということがないように、みんなが同じものをおいしく食べられるように、アレルギー対応のスイーツを作っていきたいと思いません。

私は夢の実現のためにも、これからも勉強に励み、頑張っていきます。

※注 掲載の店舗情報について、一部未確認の店舗が含まれます。予めご了承ください。

キャラクター デザイナーへの道

洞北中学校 三年 大場 心結



私の将来の夢は、イラスト関連の仕事に就くことです。その中でも、キャラクターデザイナーを目指しています。

キャラクターデザイナーと聞いて、皆さんは何を思い浮かべたでしょうか。イラスト関連の仕事と聞いて、真っ先に思い浮かべるのは、イラストレーターで、キャラクターデザイナーはあまり知られていないかもしれません。

そこで、「キャラクターデザイナー」と「イラストレーター」、二つの職種の違いについて説明していきます。

まず、「イラストレーター」についてです。「イラストレーター」とは、雑誌やポスターなど多岐にわたる場面で必要となる「イラスト」を描く人のことを言います。ところが、「キャラク

ターデザイナー」は、「キャラクター」に特化していて、ゲームやアニメなどのキャラクターの髪型や体型、服装などを全てをデザインする人のことを言います。この説明で違いがお分かりになったでしょうか。私は、イラストを描くことが好きなのですが、それと同時に、アニメを見ることがゲームをすることも好きです。だから、ゲームやアニメなどのキャラクターをデザインする、という「キャラクターデザイナー」の仕事は、正に「天職」だと思えるようなものだったので。好きなものに囲まれて、好きなことを仕事にできる。そんなことを考えたら、将来がとても楽しになりました。

そんな「キャラクターデザイナー」になるには、まず美術系大学やゲームやアニメなどの専門学校に進学し、その後、そのような系統の会社に就職しなければなりません。そして、就職する際には、自分の作品集としてポートフォリオをその企業に提出することで、自分はどんなデザイナーが得意なのか、その会

社の作風にあっているのか、ということをお伝えしなければなりません。ちなみに、ポートフォリオとは、デザイナーが自分の作品をファイルし、就職先にアピールするための作品集のことを言います。

そして、「キャラクターデザイナー」になる上で、必要となってくるスキルが三つほどあります。一つ目は、「キャラクターデザイナー」としては勿論、デザイナーとして活動していく上で必要な「画力」。二つ目は、作品の世界観にあったキャラクター作りをするための「キャラクター設定」。最後の三つ目は、キャラクターが身に付ける衣装や配色を考える「デザインスキル」。これら三つのスキルの他にも、「デッサン力」や「コミュニケーションスキル」、そして、なんとと言っても「想像力」が大切です。そのために、普段から本や映画に触れることで、「想像力」をふくらませたり、たくさんの人とコミュニケーションをとることで、「コミュニケーションスキル」を培ったりしていききたいです。それによって、クライアントの要望に添いながらも、自分の描きたいものを描けるようにしていきたいです。そして、「作品の顔」となる、たくさんの人に愛される、そんなキャラクターを作りたいと思っています。

ところで、最近では、「生成AI」というものがよく使われるようになってきました。これにより、イラストレーターや画家、作曲家などの仕事に就いている人たちの一部の仕事がなくなったり、その価格が安くなったりしてきています。先ほど述べたように、もし、将来仮に「キャラクターデザイナー」に私になれたとしても、「生成AI」によって仕事ができず、十分な収入が得られないかもしれません。一抹の不安はありますが、それでも、私は、「キャラクターデザイナー」になりたい、と思っています。

「キャラクターデザイナー」になって、その道一本だけで生きていける、ということとはとても難しいことかもしれません。挫折することもあるかもしれませんが、しかし、そんなときがあっても、自分の「キャラクターデザイナー」という仕事を楽しみながら生きていくという思いを忘れずに、将来生きていきたいと思えました。そして、その夢を叶えるために、精一杯努力して、自分自身を磨いていこうと思います。

防災・減災の視点から考える これからの私の行動

石峯中学校 二年 木戸 七海



私は、この夏、北九州市の代表として防災・減災について学ぶために広島市を訪問してきました。

一日目は、10年前に大雨が降り、土砂災害がおこった後の実際の様子を視察しました。想像したよりも広い範囲が壊れていて、そこにあつた建物が土石流にまきこまれて消えてなくなっていたことに自然に逆らえないことの恐ろしさを感じました。被災された方は、その時の様子を「ニュースでは土の腐ったにおいがすると言われていたが、大きな木も流れていたの、みなさんにとっては意外かもしれないけれど私には森林のイイにおいがした。そして、今でも奥さんや沢山の人がトラウマになつて苦しんでいる。」と言われていました。そんな声を聞き、

私は、どうしてこの災害がおきたことを知らなかったのだろう。私に何か手伝えることはないだろうかという気持ちになりました。

二日目は、山奥の川の上流に行きました。そこは、空を包むような森があり、知らない種類の木が沢山あり、川の水は手ですくった時にとても冷たく透明で綺麗でした。その日は、熱中症指数が高かったにも関わらず、空気はとても涼しく爽やかな場所でした。自然に囲まれて、気持ちが落ち着き、その場所にずっといたいなと思いました。私は、自然は有難い存在であると感じました。

今回の視察を通して、私がみんなに伝えたいことは次の3つです。

一つ目は、「自然災害はいつどここの場所でもおこりうるものである」ということです。被災された方は、「恥ずかしい話ですが、私は自分の住む町でこのようなことになると思うと全く思つて

いなかったので、いつ災害が起こってもおかしくないということ伝えていきたいです。」と話をされていました。今回、視察を終えてすぐに若松区のハザードマップをみてみると、主に土砂災害や高潮が起こる可能性があることがわかりました。また、今回の土石流のあった広島市と石峯中の校区をみても高い山が多く、そこに家が建っている所などは、似ているところもあるなと感じました。

二つ目は、「自然は怖いものだけではない」ということです。防災・減災ときくと自然の怖さばかりを感じてしまうかもしれませんが、自然は私たちに恵みをもたらしてくれます。若松区には山と海があります。私が小さい時に見た螢は、輝いていてきれいでした。私の友達は近くの海に魚釣りにいったりもします。またトマトやキャベツなどの食べ物も有名でおいしいです。私が高塔山に登って景色を見た時に、高いビルや小さい家が沢山あったり、緑が見えたり、若戸大橋が見えたり、海が見えたり、工場が見えたりします。私たちは、自然と触れ合いながら生活してきたと思います。

三つめは、「私たちにもできることがある」ということです。石峯中学校で、1学期に津波を想定した避難経路・場所の確認

をしました。どこに避難すればよいか3か所の公園を学校の代表メンバーで周り、話し合いました。実際に歩くことによって坂の多さや倒木の危険性など地図上では気づきにくいことまで考えることができました。また、10月には小学校や地域と連携した避難訓練も予定されています。私も参加して、小学生や地域の方たちと協力していきたいと思います。そして日ごろからの訓練を大切にしたいです。

私が防災・減災について大切にしたいことは、自分たちの住む町の自然の豊かさや恩恵に感謝しつつ、一方で自分たちの住む町に考えられる災害についてもしっかりと知り備えておく必要があるということです。私は、中学生ですが、呼びかけやすぐに行動する力があると思います。私が学んできたことを中学生だけでなく色々な人に伝えて、自然と向き合いながら生きていける北九州市にしたいです。

